

書評

イラストでわかる 中枢神経障害理学療法

上杉雅之(監修)
伊藤克浩・高村浩司(編著)

B5判・276頁
定価 4,620円(本体 4,200円+税10%)
医歯薬出版刊, 2024年



[評者] 中谷知生 宝塚リハビリテーション病院

この書籍では、中枢神経疾患に関連する理学療法の最新のエビデンスと実践的な知識を、学生や若手理学療法士向けにわかりやすく解説しています。特に、複雑で多様な病態を持つ中枢神経障害に対する理学療法に苦手意識を抱きがちな初心者にとって、有益な一冊になると感じました。

本書の最大の特徴は、豊富なイラストや図表を活用して、初学者が難解に感じやすい内容を視覚的に解説している点です。中枢神経疾患に携わる理学療法士にとって必須の知識が網羅されており、疾患ごとに解説がわかりやすく整理されています。取り上げられている疾患は、脳卒中、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など、多岐にわたる病態が含まれており、それぞ

れの疾患の理学療法における評価方法や治療アプローチが具体的に紹介されています。疾患ごとの特徴が整理され、初学者がイメージしやすいように工夫されています。

また「先輩からのアドバイス」というコラムでは、実際の臨床におけるヒントや工夫が紹介されており、臨床現場で直面する課題を解決するうえで非常に参考になります。これにより、理論だけでなく実践的な知識や技術を身につけることができるよう工夫されています。

私自身は脳卒中患者の歩行機能再建に関する臨床・研究に興味があります。本書の第9章「脳卒中患者の歩行機能再建」を開いてみると、歩行の基礎知識や神経機構、臨床での課題に加えて、

徒手的な操作から下肢装具の使用まで、幅広いテーマがカバーされており、それぞれのアプローチが非常に詳細に解説されています。病態から評価、治療の実際までを俯瞰的に捉え、情報を整理することができると感じました。

本書は、上杉雅之氏、伊藤克浩氏、高村浩司氏といった、神経生理学や神経発達学に深い知見を持つ監修・編集者のもと、執筆者には業界のトップランナーとして活躍中の研究者・臨床家が名を連ねており、各先生方の最新の知見と臨床経験が反映されています。特に初学者や若手理学療法士にとって、専門的な学びを深めるための最初の一冊としてお勧めしたい書籍です。